



# はらじゅくかわら版

独立行政法人 国立病院機構

## 横浜医療センターの理念

私たちは、患者さんの人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者様中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供すると共に、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者様がより良い医療が受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



国道134号線から江ノ島を望む

### 第33号 目次

院長ご挨拶	1
東日本大震災の災害派遣を経験して	2
東日本大震災における医療支援に対する感謝状贈呈	3
横浜医療センター研究会開催のお知らせ	3
地域医療連携	
病診連携施設紹介	4
行事紹介	
防災訓練	5
第5回登録医大会の開催について	6
「病院機能評価Ver.6.0の認定を受けました！」	7
第9回糖尿病フェア	8
新採用医師挨拶	9
医師の人事異動	

ボランティアをしてみませんか?	9
看護学生募集のお知らせ	10
編集後記	
外来診療担当医表	11

発行 月：平成23年8月  
 発行 行：独立行政法人国立病院機構  
 横浜医療センター 広報委員会

発行責任者：工藤 一大  
 住 所：横浜市戸塚区原宿3-60-2  
 電 話：045-851-2621  
 FAX : 045-851-3902  
 URL : <http://www.hosp.go.jp/yokoham/>



当院携帯サイトはこちらから

## 院長ご挨拶

今年の夏も暑くなりそうな日々が続いておりますが、皆様お体の具合はいかがでしょう。

2011年3月11日の東日本大震災発生からはや3か月以上が過ぎました。幸い当医療センターは昨年4月に新築し免震構造となっておりましたので被害はほとんどありませんでした。この間、東北新幹線、東北自動車道などの回復の早さには驚きますが、津波による直接の被害の復旧にはどれだけの時間がかかるのか予測もつきません。一日も早い復旧を祈るばかりです。



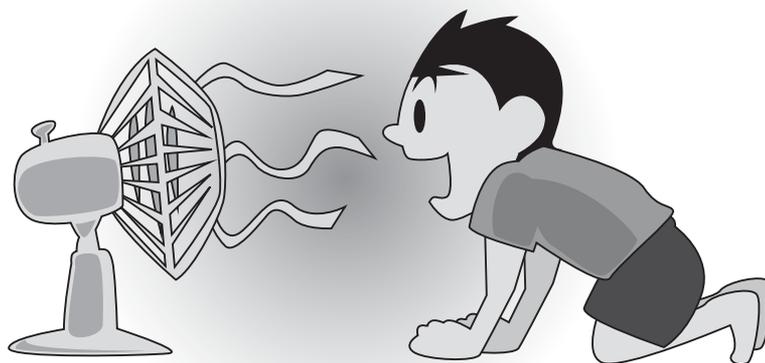
病院長 工藤 一大

3月の大地震以降当医療センターから国立病院機構、横浜市からの要請を受け医師、看護師、事務、放射線技師を7回にわたり派遣してまいりました。横浜市からの医療支援は6月いっぱい終了予定ですが、国立病院機構からの要請で7月にも福島県内に医師、看護師を派遣いたします。今後も医療支援に協力していくつもりであります。

夏の節電にも協力してまいります。幸い当医療センターのような二次、三次救急医療を行っている病院は節電15%規制の対象外ではありますが、4月から行っております節電対策の効果は数字でも表れており、電力消費量は10%程度下がっております。患者の皆様からも節電を求める声をいただき、不便ではない程度の照明の間引きやエレベータの一部休止も行っております。東電からは計画停電が再び行われる可能性はあるとの報道があります。当院では3月に7回の計画停電を経験しました。この時の当医療センターの状況を鑑み、この夏万が一計画停電が行われてもできるだけ診療に影響が及ばないように院内の電気系統を見直し、一部工事を開始しております。皆様のご協力をお願いいたします。

当医療センターを訪れる患者さんの多くは地域の開業医や病院からのご紹介をいただいた紹介患者さんです。戸塚区、泉区からが多く昨年度は71%を占めていました。紹介率も約80%となっております。各種の研修会、勉強会などを通じて地域の診療所、病院、介護施設などと今後もより一層緊密な連携し、地域が一体となった患者中心の医療体制を築いていきたいと考えております。

この夏は節電を求められてはいますが、省エネを上手に工夫し皆様体調に十分ご留意していただくようお願いいたします。



# 東日本大震災の災害派遣を経験して

救急科 後藤 正美

昨日、気仙沼港に初カツオの水揚げのニュースがありました。3月11日に発生した東日本大震災の医療支援のため横浜市医療チームとして、気仙沼に派遣となりました。その時の気仙沼はまだ瓦礫の山と、壊れた施設でとても港が開ける状態ではありませんでしたので、これはうれしいニュースでした。

私たちは、体育館中学を拠点に数カ所の避難所をめぐり、診療をしていました。避難所は中学や、お寺、公民館などで、薬はこちらで持参し、その場で処方するというやり方でした。避難している人達の雰囲気は中学体育館とお寺ではずいぶん違ったのが印象的でした。お寺は規模が小さく、また、信者さんのボランティアの人たちがいるためか、中学体育館に比べて明るい印象を受けました。

患者さんの疾患は慢性期疾患がほとんどであり、薬がなくなったとか、飲んでいた薬の相談や、その他、時期的にアレルギー疾患とくに花粉症の患者さんが多くなってきていました。また、避難所の回診し、こころのケア（精神科もしくは診療内科）を受けた方がいいのではという人の診療の手配をしたり、上水が復旧していないためおろそかになりそうな、口腔ケア指導をしました。

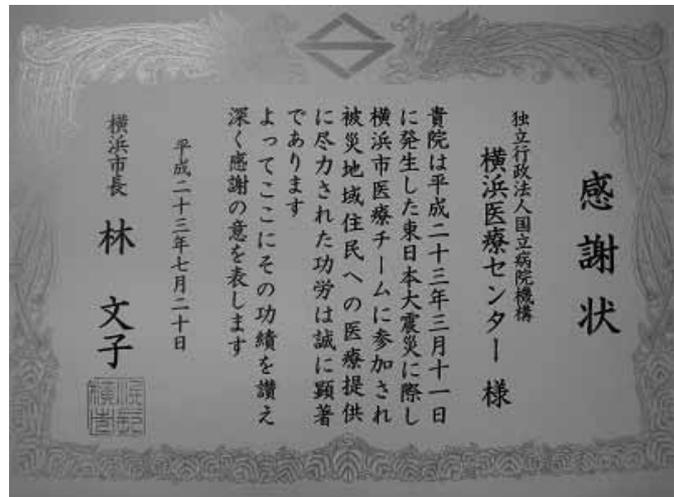
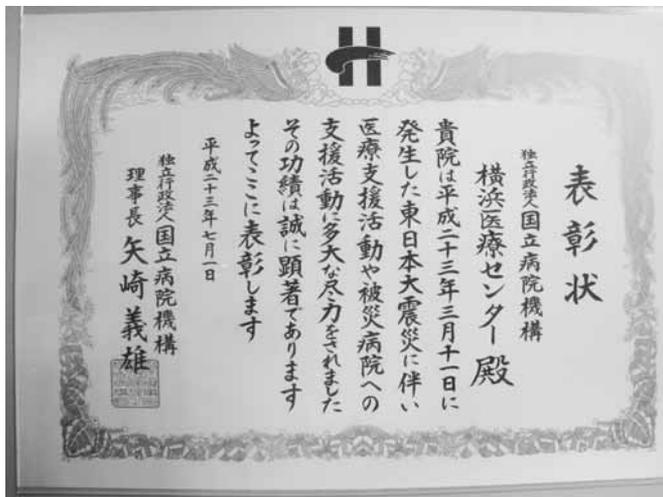
病院や薬局も被害の少ない地域では再開を始めてきていましたが、被害の大きい地域では診療所などの再開はまだで、その地区の患者さんの受診には交通手段が必要という状況でした。いずれにしても、復旧がすすみ、慢性疾患が主になり、医療支援の必要は減少してきており、どのように地元の医療者に引き継ぎをしていくかという時期になってきていました。

震災からちょうど1カ月が過ぎた時でしたが、まだ被災した地域の復興はまだ進んでおらず、道路わきの瓦礫や川に流された船や車などがまだそのままであり、被害の大きさが実感させられました。医療支援のニーズは減少してきていますが、復興にはまだまだたくさんの支援が必要だと思いました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。



# 東日本大震災における医療支援に対する感謝状贈呈

3月11日に起こった東日本大震災において国立病院機構横浜医療センターより医療班(7月17日時点、8班22名)として派遣し医療支援を行った。このことに対し、国立病院機構および横浜市より感謝状が贈呈された。



## 横浜医療センター研究会開催のお知らせ

### 横浜藤沢消化器疾患研究会

開催日時 / 奇数月第2月曜日 午後7時~  
開催場所 / 当院大会議室  
連絡先 / 小松臨床研究部長・松島消化器科部長  
045-851-2621 (代)

研究会にご興味をお持ちの先生は、どなたでも参加を歓迎いたしますので、ご連絡下さい。



# 地域医療連携

## 病診連携施設紹介

### 鈴木整形外科

診療科目：整形外科・スポーツ整形外科・理学診療科

皆様、こんにちは。泉区の市営地下鉄「中田」駅近くで開業して、もうすぐ四半世紀を迎え、4月からは泉区医師会長に就任しました。国立病院機構横浜医療センター(旧国立横浜病院)には昭和56年に一年間勤めた事もあり、又近くに昭和42年から父母の家から通学していた為、自然と現在地に開業してすんなりと病診連携になっていったようです。学生時代疲労骨折に苦しん



下段中央が院長

だ事もあり、興味を持ってスポーツ外傷学を目指すようになりました。勤務医の時にはスポーツ選手の豊富な横浜市立港湾病院にて一流選手と親しくなり、日本体育協会のスポーツ診療所にも通って、スポーツテーピングを会得させて頂きました。更にミニバスケットボール20年間、アメリカンフットボール5年間コーチ・トレーナーをやった経験を生かし、現場のスポーツに役立つようなテーピングをホームページの動画を掲載し、やる気のある選手たちと向き合っています。診療所はあくまでも保存療法なので、治療に限界が訪れた患者さんや、手術・精査が必要な症例ははきちんとしたインフォームドコンセントと正確なセカンドオピニオンを心掛けて、やる気のあるスポーツ選手が少しでも早くスポーツ場面に復帰できる様に心掛けております。これからも益々病院と診療所連携を密にして、ご意見を賜りながら、地域医療に益々邁進して行く所存でございます。



### 鈴木整形外科

〒245-0013 横浜市泉区中田東3-2-8

TEL：045-804-1155

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:30	●	●	●	/	●	●	/
午後 3:00~7:00	●	●	●	/	●	※	/

※土曜午後 2:00~5:00

休診日 木曜・日曜・祝日

# 行事紹介

## 防災訓練

横浜医療センター附属横浜看護学校 水野 泰子

6月8日に看護学校では防災訓練を行いました。年1回の訓練ですが、今年は先日の大震災の経験から学生教員ともども心を引き締めて行うこととなりました。

避難訓練に始まり、消火器での消火訓練、煙ハウスでの煙の中での避難体験、地震の揺れの体験ができる起震車での体験、屋内消火栓での消火訓練を行いました。

避難訓練は粛々と静かに避難することができ例年より一層真剣に避難行動が取れました。煙ハウスでの体験では、「煙がこんなに苦しいとは思わなかった」「前が見えにくく非難するのが大変だった」など実際の火災を想定した体験で火災の恐ろしさを知るとともに、火災時の避難姿勢を学ぶことができました。消火訓練では、はじめは恥ずかしがって大声で叫んだりできなかつたのですが、最後には「火事だ」としっかり告げて消火活動を行いました。

やはり起震車での体験は現実感が大きく、真剣に取り組むことができました。丸くかかんでも揺れている中では姿勢が取りづらく、恐怖感があつたようです。3月11日の東北大震災当時、看護学校では講義中でした。急遽、学生は帰宅したのですが、鉄道の乱れのなか帰宅できない学生もおり、学校に宿泊した者もいました。地震の時どう対処するべきリアルな体験として訓練できたと思います。

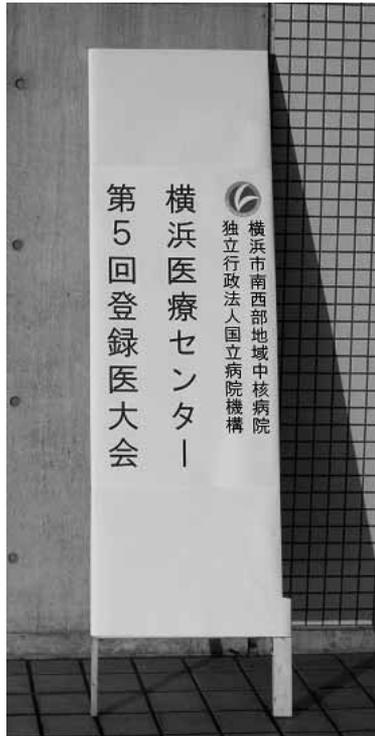
今後來るであろう東海沖地震などに備えておければと思います。



# 行事紹介

## 第5回登録医大会の開催について

横浜医療センターでは、地域の開業医等からの要請に適切に対応し、地域の医療機関と緊密な連携をとることで地域医療の向上を推進するべく、年に1度、登録医大会を開催しています。今年度は院長が交代したこともあり、当院の取り組みについてお知らせし、ご理解いただくとともに、今後も紹介・逆紹介による地域医療連携を進めることを目的として、6月23日(木)に登録医大会を開催しました。



### 【講演風景】

演題：「当院救命救急センターにおける取り組みについて」  
当日は、25名の登録医にご参加をいただきました。

## 公開医療講座について

6月29日(水)15時から、横浜医療センター2階大会議室で第3回市民公開医療講座を開催しました。

今回は、「脳卒中から身を守るために」をテーマに、高橋神経内科部長が講師を務め、95名の方にご参加をいただきました。

次回の公開医療講座は、「認知症と物忘れ外来」をテーマに武川精神科部長が講師を務めるとともに、開催会場を戸塚公会堂に移し、9月29日(木)に開催します。詳細については、今後、病院ホームページなどを通じてお知らせしてまいります。



# 行 事 紹 介

## 「病院機能評価 Ver.6.0 の認定を受けました！」

経営企画室長 古川 佳直

当院はご存知のとおり平成22年3月に新築移転を行い、ハード面は整備されました。次はソフト面の充実です。

移転から、ちょうど1年後にあたる平成23年4月23日が前回認定された病院機能評価Ver.4.0の認定期間が終了になることから、早い時期から準備委員会を立ち上げ、全職員で更新に向けた取り組みを行ってまいりました。

受審に際しては、認定を受けることが第1の目的でなく、準備の段階でいろいろな問題点の洗い出しを行い、改善を行っていくことが大切であると考え、規程やマニュアルの点検・見直しを行いながら準備を進め訪問審査当日の3月1日を迎えることとなりました。

当院は審査体制区分4(一般500床以上)に該当するため、7名のサーベイヤーが来院し、書類確認、合同面接調査、領域別面接調査、ケアプロセス評価のための病棟ラウンド等が行われました。

結果は、352の評価項目(第1～第6領域の小項目数)のうち職員の健康診断受診率の1項目を除き“適切である”と評価されました。これは全職員で取り組んできた成果の現れと思っています。

その後は補充的な審査(書類審査)が行われ、日本医療機能評価機構内部の評価委員会、運営会議の審議を経て最終的な決定が7月1日に行われ、認定証が交付されることになりました。写真がその「認定証」です。認定期間は平成23年4月24日から平成28年4月23日までの5年間になります。

これからは、改善したことを継続し、定期的に評価を行うことにより改善する文化を定着させることが、病院理念にある「患者の皆様がより良い医療が受けられ、地域で選ばれる病院」に繋がっていくものと考え努めてまいります。



# 行事紹介

## 第9回糖尿病フェア

西5病棟 長嶋 美里



2003年から始まった「糖尿病フェア」も今年で9回目を迎えました。今年は東日本大震災による計画停電の影響で一時開催が危ぶまれましたが、無事に開催に至り100名近い方々にご参加いただきました。しかも今年は「災害に備えて今できること」というテーマで、非常食やお薬カード、避難所での災害マニュアルを展示し、多くの方が興味を持って参加していた印象を受けました。

病棟で勤務しておりますと、糖尿病による合併症（脳梗塞、心筋梗塞、網膜症、足病変など）で苦しんでいるたくさんの患者様にお会いします。その中には「血糖値が少し高いけど糖尿病とは言われなかった」「なんともないから治療していなかった」と言われる方々がいます。今回もたまたま参加して血糖測定をしたら高血糖であることがわかり、糖尿病の可能性があると糖尿病内分泌内科に受診をお勧めした方がおりました。「糖尿病フェア」は一人でも多くの方に、糖尿病の予防、治療の大切さを知っていただきたいと考え、横浜医療センターの糖尿病チームケアユニット全員で取り組んでおります。毎年5月に開催しており、どなた様でも無料で血糖測定、体脂肪測定、血圧測定、フットケア（足の爪切り・タコけずりなど）が体験でき、食事・お薬・運動の相談ができます。事前の申し込みなど一切必要ありませんので、興味のある方は是非一度足を運んでみてください。スタッフ一同お待ちしております。



## 新採用医師挨拶



皮膚科医師  
齊藤 典充

6月1日付けで、前任の天羽康之先生の後任として着任いたしました皮膚科の齊藤典充です。私は以前にも当院にお世話になっており、今回は2回目の勤務になります。以前に勤務していた時から病院の建物やシステムは新しくなりましたが、見覚えのある方も何名かおられ懐かしさも混ざった気持ちで楽しく働き始めております。皮膚は全身を映す鏡であると言われており、皮膚に生じた変化が様々な全身疾患の病態を反映致します。種々の皮膚所見からそこにある病態の本質を把握し、各科の皆様と連携をとりながら診療にあたっていきたいと思っております。「丁寧な診察とわかりやすい説明」をモットーに、そしてパラメディカルの皆様ともコミュニケーションをしっかりと取りながら、同僚の片山先生とともにしっかりと皮膚科の診療を行っていきたいと思っております。どうぞよろしくようお願い申し上げます。

## 医師の人事異動

発令年月日	発令	職名	氏名	発令年月日	発令	職名	氏名
23.5.1	採用	麻酔科医師	田澤 利治	23.5.31	退職	皮膚科部長	天羽 康之
23.6.1	採用	皮膚科医長	齊藤 典充	23.6. 1	退職	麻酔科医師	大膳 和華

### 活動内容

- ・インフォメーション（案内）
- ・本の整理
- ・車椅子使用者の介助



### 活動曜日と時間

- ・月曜日～金曜日（休日を除く）8:30～17:00 2～4時間程度

### 心構え・その他

- ・ボランティアは心身ともに健康であることが大切です。
- ・ボランティアは16歳以上の方が対象です。
- ・患者さまのプライバシーを守りましょう。
- ・病院の規則や指示に従って活動します。
- ・制服、休憩室はご用意致します。
- ・交通費・食費は自己負担になります。



### 病院ボランティアとは

- ・病院内で、病院職員と協力し合い、患者さまが安全で安楽に入院生活が送れるように、自発的に無報酬で奉仕活動をする人のことです。
- ・医療に関する専門的な知識がなくても、ボランティア自身の経験や技術を活かした活動、誠意ある心からの活動ができることがボランティアです。

ボランティアのみなさんへ

## 看護学生募集のお知らせ



独立行政法人国立病院機構  
横浜医療センター附属横浜看護学校  
お申し込み受付中!!

### 学校説明会

アットホームな雰囲気の中で、ミニ講義を受けたり、  
看護技術の体験をしてみませんか？

当日は、当校の先輩が皆様をご案内いたします。  
この機会にぜひ横浜看護学校を見にいらして下さい。

受付 9時～9時30分  
説明会 9時30分～12時30分

お電話、Mailで、事前にお申し込み下さい

第1回	7月23日(土)	【公開講座】
第2回	8月 4日(木)	
第3回	8月29日(月)	【公開講座】
第4回	9月23日(金)	
第5回	10月 29日(土)	【楓葉祭】
第6回	12月 3日(土)	【公開講座】

【住所】〒245-0063 横浜市戸塚区原宿3-60-2

【問合せ】TEL : 045 ( 853 ) 8322

【HP】<http://www.yokohama-ns.com/>



### 編集後記

7月5日に、例年よりも10日～15日も早い梅雨明けとなり、7月初旬というのに日々暑い日が続いております。今年は節電も行いつつ、いかにして涼を求めるか考えています。

扇風機が飛ぶように売れ、どこの量販店でも売り切れ状態です。どういうわけか街頭で配られているうちわが増えるのは我が家だけでしょうか。

熱中症には、くれぐれもご注意ください。

診療科・曜日	月	火	水	木	金	備考	
外来受付	小児科	鍋木 陽一	菅井 和子	菅井 和子	鍋木 陽一	福山 綾子	
		小張 真吾 河合 駿	本井 弘尚 檜佐 香織	矢竹 曜子 神垣 佑	山澤 隆二 村田 宗紀	小林 慈典 石橋 麻由	
A	心臓血管外科 形成外科	盆子原 幸宏	手術日 村下 一晃	東館 雅文 手術日	鈴木 剛 村下 一晃	東館 雅文 村下 一晃	木曜日は予約患者のみ(新患受付無し)
	整形外科	国府 秀俊 杉元 紳太郎 藤巻 洋	日塔 寛昇 橋本 政敏 国府 秀俊	国府 秀俊 藤巻 洋 門脇 純弘	日塔 寛昇 橋本 政敏	杉元 紳太郎 門脇 純弘 日塔 寛昇(※)	※予約患者のみ。
B	総合内科外来	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	※予約患者のみ。
	糖尿病内分泌内科	高木 佐知子	野本 文子 高木 佐知子(※)	宇治原 誠	宇治原 誠		
	神経内科	中村 治子	菅原 恵梨子	上木 英人	遠藤 雅直	高橋 竜哉	
	腎臓内科	松下 啓	岡田 瑠奈	涌井 広道	松下 啓		
	呼吸器内科	塩原 康正	検査日	山川 泰	検査日	榎原 基史 山根 章(肺結核)	▲:紹介状持参の方のみ ■:午後の予約のみ
	消化器内科	▲交代医師 (初診のみ)	塩賀 太郎(初診) 鈴木 大輔 ■小松 達司	小松 達司(初診) 松島 昭三	松島 昭三(初診) 野登 はるか ■小松 達司	交代医師(初診) 小松 達司	
	循環器内科	内田 吉枝	岩出 和徳 網代 洋一(午前)	田中 直秀	▲田中直秀(午前)	岩出 和徳 嵐 弘之	《循環器科新患当番医》*(月)第1・2[田中]・第3・4・5[岩出]
	リウマチ科	曾我 陸義	宮城 瑠美子	検査日	宮城 瑠美子 ■曾我 陸義	■宮城 瑠美子	
	外科	清水 哲也 後藤 晃紀 堀井 伸利	関戸 仁 松田 悟郎 森 康一	松田 悟郎 嶋田 和博 行田 悠	松田 悟郎 清水 哲也 嶋田 和博	急患のみ (交代医師)	
	呼吸器外科		石川 善啓 正津 晶子		正津 晶子 石川 善啓	坂本 和裕 正津 晶子 藤津 和彦 市川 輝夫	ご紹介については外来日以外でも随時受け付けておりますので、 直接ご連絡ください。 ▲:第1・3・5週(火)岡田 富 第2・4週(火)宮原 宏輔 ●:第1・3・5週(水)郭 博吾 第2・4週(水)谷野 慎 ※脳ドッグの詳細はPM2:00～5:00の間に 「医事 脳ドッグ受付」までお問い合わせください
脳神経外科	急患のみ (手術日)	▲ 交代医師	● 交代医師 (※脳ドッグ) 向原 茂雄	急患のみ (手術日)			
C	耳鼻咽喉科	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸 手術日	
	眼科	清水 康平 木村 正彦	清水 康平 木村 正彦	清水 康平 木村 正彦	清水 康平 木村 正彦	手術日	火曜日は新患(要紹介状)・急患のみとなります。8:30～10:00
	泌尿器科	本田 直康 奥野 紀彦※	本田 直康 奥野 紀彦※	手術日	奥野 紀彦	本田 直康 笹本 治子	※外来時間は11:00～12:00まで 水曜日午後は手術の為、入院患者の依頼は断りしています。 至急診察が必要な場合は、電話をお願いします。
	皮膚科	齊藤 典充 片山 智恵子	齊藤 典充 片山 智恵子	手術日	齊藤 典充 片山 智恵子	片山 智恵子	初診は一般・小児心身症のみ。要紹介状。1日1人まで。 ※月～金:初診の方は10時までに受付を済ませて下さい。(要紹介状、1日2名の予約制) 初診は定例の再診担当医以外の医師が診察します。詳細は精神科外来にお尋ねください。
D	心療内科	心理検査	心理検査	心理検査	心理検査	心理検査	
	精神科	森田 睦郎	武川 吉和	安藤 豪	山口 和己	武川 吉和	
	婦人科 産科	向田 一憲 窪田 与志	小笠原 良治 長谷川 瑛	窪田 与志 後藤 美緒	乗杉 輝彦 高木 偉博	中村 秋彦 向田 一憲	
歯科口腔外科	塩入 重彰 (再診のみ)	塩入 重彰 赤津 千絵 (午前初診・午後再診)	入院手術日	塩入 重彰 赤津 千絵 (午前初診・午後再診)	塩入 重彰 赤津 千絵 (再診のみ)		
(専門外来)	小児科	アレルギー検査	感染免疫・アレルギー (小林)	アレルギー(菅井)	フォローアップ外来 (福山)	予防接種(交代制) 13:30-14:30	
		シナス(10～3月) (交代制)	フォローアップ外来 (矢竹)	アレルギー(村田/鈴木)	1ヵ月健診 (交代医師)	神経外来 (本井)	
		アレルギー(菅井)	腎臓外来(表裏) フォローアップ外来(福山)		1ヵ月健診 (交代医師)	循環器外来(鈴木)	
	アレルギー(鈴木)	アレルギー(鈴木)					
	整形外科		スポーツ整形外科(国府)				毎週15:00～16:00
	神経内科		頭痛外来 物忘れ外来				地域連携室を通して完全予約制
	糖尿病 内分泌内科	糖尿病連携バス外来					
	看護部			腹膜透析外来	糖尿病看護ケア外来		完全予約制
	麻酔科	ペイン・緩和外来		糖尿病フットケア外来	糖尿病フットケア外来		地域連携室を通して完全予約制
	外科			ペイン・緩和外来			(※)完全予約制
	耳鼻咽喉科			スキンケア外来(※)	乳がん検診(※)		完全予約制
	循環器科				補聴器外来(午後)		(※)完全予約制
	精神科			ペーサー外来	睡眠時無呼吸 症候群外来(※)		(※)完全予約制
	産婦人科	助産師外来 母乳外来(午後) 母親教室(※)	物忘れ外来 助産師外来 母乳外来(午後) 母親教室(※)	助産師外来 母乳外来(午後) 母親教室(※)	助産師外来 母乳外来(午後)	助産師外来 母乳外来(午後)	初診には紹介状が必要。1日2名の予約制。 完全予約制 (※)午後のみ。夫立会教室は第2、4週土曜日、第3週日曜日。
	放射線科	小田切 一将 注①	菅川 由美子 注②	榎多 政治 注①			※注①9:00～11:00【完全予約制】 ※注②13:30～15:30【完全予約制】

初診受付: 平日 8:30～10:00  
再診(予約外)受付: 平日 8:30～10:00  
休診日: 土曜・日曜日・祝日・12月29日～1月3日  
地域医療連携室(脳ドッグ受付)(TEL 045-853-2331)

急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)  
紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。  
地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月～金 8:30～17:00)  
TEL 045-851-2621 (時間外、土・日・祝日)  
FAX 045-853-8356

お知らせ 色つき部分が変わ箇所となります。ご確認の上受診ください。

(写真右)

戸塚は江戸時代には東海道の宿場として栄えており、旅籠の数も小田原に次ぐ所で江戸より10里、小田原まで10里と中間点にあるため、江戸を朝立ちして戸塚で泊まり翌朝小田原に向かって出発するので大変賑わった町でした。  
又、現在の戸塚消防署とスルガ銀行戸塚支店の間は大商店が立ち並び、旅籠や遊廊等が点在していました。

